

白紙から話を始める中国人

立命館大学文学部 中川正之

0 : マリー・クロード・パリ氏との会話

「生まれ変わっても中国語はやらない。ネイティブの反応が一致しないから。——賛成」

- ① 外国語研究者は対象言語に対してそう思うことが多いのか？
- ② 中国語は特殊な言語なのか？

参考 12月5日（日）沈家煊“汉语研究要摆脱印欧语的眼光”

大阪淀屋橋立命館大学大阪オフィス

1 : 「私は犬に中国語を教えている」「我教狗汉语”

中川「外からみた大阪弁・日本語・中国語」『月刊言語』2007/10

(1) 中国人の反応

- ① 犬は中国語をマスターできない。一言ならできるかもしれないので“一句”を加える。
- ② 文法的には問題はないが現実にはありえないので容認不可能である。
- ③ “狗”というあだ名の人間なら成立する。

(2) 日本人の反応

「えっ!？」と驚く。

2 : “笨” と罵られ、それを認めて“笨” と言う。 朱春躍氏

3 : 你结婚了吗? ① 我结婚结了八年了。

② 我结婚结了八年，可是还没结成。

4 : ステレオタイプ

(1) 「花」の絵を描く 中川『漢語からみえる世界と世間』岩波 2005

(2) 「魚」の絵を描く 中川・定延『言語に現れる世間と世界』「あとがき」

くろしお 2007

(3) 「妖精」と呼んでいるヴァイオリニストの川田知子の公式ブログ「ともコラム」。

「いよう！カワダ元気～？」

「おう！元気元気～！なんか今回のオケは懐かしい人が沢山いるね～。」

「うんうん。それにしてもカワダ変わらないねー。」

「(内心イェー！(^o^)v) いやいや、君も変わらないよね～。」

「そういや大学時代代返してやったの覚えてるか？お前が卒業できたのは俺のお

陰なんだぞ。」

「(ギクッ。覚えてない…。あまりに代返の数が多すぎて…) そ、そうだよ！ありがとう！そうそう。私が今あるのはあなたのおかげです！」

てなわけで、ちかしオーケストラは懐かしさと共に昔のホコロビも露呈してしまったのでした(^o^;)

あはは。

(4) 「妖精」のイメージとあまりに違うのではないかとの中川の抗議メールに対する返事。

女性ヴァイオリニストのイメージを崩しまくってしまってすみません……。

何せ元はといえば私の小学校の時のあだ名は「組長」ですから。

あのホームページを作ってくれている私の友人（一般OL）が

「女流ヴァイオリニストって、家に螺旋階段があってそこから長いワンピースを着て

紅茶を持って降りてくるイメージだったのに」

といわれたことがあります。

5：ステレオタイプの真偽

(1)

「ソレ、ポコペンアリマス」

と、こう喋ると、概念的中国人が現れるように、芸の世界で武士を演出しようとするれば、前掲のような言葉（引用者注「左様でござる、拙者、しからば」など）をつかわせると、アアいまは侍だな、ということがたれにでもよくわかる。とって個々のナマの武士がこういう、まるで社説のような文章言葉を日常使っていたわけではなさそうであり、かといって架空の言葉でもない。この間のあやら（区別）がややこしい。

『余話として』「武士と言葉」文春文庫 1979 年

(2)

ステレオタイプとは、既存の期待の一種であり、特定の集団やその成員の傾性や行動特性に対する固定化された信念のことを言う。

菅さやか、唐沢穰著「人物の属性表現に関する「具体」と「抽象」（中川・定延編

『言語に現れる「世間」と「世界』』所収（くろしお出版 2005 年）

(3)

大手術をした人はその手術跡を人に見せたがる。

(4)

「どないしたん？おあがり……」なんて男は、いう。

こういう言葉、大阪弁のやわらかさ、どきっとするようなエロチシズム、底ふかさ、というものは、よその国の男にはない。上方風いろけとでもいうのか、本人は何気なしにいつてるんだらうけども。田辺聖子『言い寄る』2007 講談社

あ、関西人のオトコっていろけあるのかしらん…と、この小説を読んだときびっくりしたものが、……………

こういう関西オトコのいろっぼさ、どれくらいの人知っているだろう？関西弁のオトコといえば、好意的に見れば親しみやすいとか愛嬌があるとか、距離感が近いとかいうけれど、ちょっとずい感じ、商売人、横柄、なんかもよく聞く、いずれにしてもまさか“いろっぼい（浪速風、でなくて上方風というところが重要です）、そこが加わるとは驚き、いやピンとこないといわれそうな気がする。

ところで、こうして実際に“ステレオタイプから遠く離れた印象”というのは、これは存外すんなり受け入れられるのが何とも不思議である。つまり、ピンとこない・・・あ、でもそうなの、そういう人がいるのね、やっぱりね、さんまばかりじゃないよね。と、こう続くのは容易に想像できる。どこか関西にきて「明石家さんまみたいな人ってほんとうにいるんだ！」と街角のおじさんに興奮する人もいるくらいで、つまりステレオタイプというのはその存在があまり期待されていない。瓶底メガネに学生服の東大生や、頭にカーラーをつけて猫を抱えた大家さんとか、頬かむりをした黒尽くめの泥棒が抜き足差し足で歩いているとか、ねじり鉢巻きに「祭」のうちわの江戸っ子なんかも、遭遇したら「本当にいるんだ、こういう人」と思うこと必至である。（立命館大学映像学部3年 M.K さんのレポートより一部抜粋）

(5) 想定外と想定済み

“竟”と“畢竟”

(6) 遡って話を始める日本人

① 先日は失礼しました。

② 今日は好調なゴルフでしたが、明日はどのようなゴルフを（されます）か？

(7) High context culture 言語における状況依存性

「ところで」

6 : パラ言語情報の豊富さ

桂三枝「くもんもん式学習塾」 高校進学塾を始めるやくざ

組長：国立大学を出たもんいるか？

組員：龍治兄い（岸和田出身で競馬新聞以外の新聞を読む）

組長：インテリアやな。

龍治：わしの言う通りやっとなら問題ないんじゃけえ。

You must go to school at once. おんどれはただちに学校へ行きさらせ。

You must go to the office ただちに事務所に面を出せ。

Run away at once ただちにずらかれ

+far away ただちに高跳びせい

Don't look at me メンチを切るな

父兄：（息子はどこの高校へ）入ればいいんでしょう？

龍治：堺、府中、網走。最近は松山が待遇がいいらしい。